

■■第3回ワークショップ・ふりかえりシートの質問・意見と回答■■

■検討の進め方・ワークショップ全体について

- 第1回目の時のようなもっと夢のある意見交換の場がほしい。
- 配布資料の「会議の進め方」のところに「前向きな議論をお願いします」とあるが、そもそも話し合いのテーマが施設削減・縮小という後ろ向きなものなので建設的な議論がしづらい。第1回のような夢のある議論ができるとうい。
- 大江山は人口が増え、コミュニティが広がる可能性があるのに、施設を縮小するのはなぜか？新潟市の考えを聞きたい。

【回答】

- 新潟市の人口は今後も減少する見込みであり、それに伴い税収も減る見込みとなっています。また、現状の施設規模を維持していくためには、改修や建て替えなど多くの財源が必要となります。そうしたことから、施設の利用状況や地域の実情に合わせて、施設の最適化を図ることは避けられない状況です。ただし、施設再編を進める上では、施設規模の縮小の話だけではなく、サービス機能の維持や地域課題の解決方策などを検討する必要があります。地域のみなさんと一緒になって検討していきますので、引き続き、前向きに積極的な議論をお願いします。

- 改修や建て替えの青写真がほしい。

【回答】

- 今回のワークショップは、大江山地域実行計画を策定するうえで、サービス機能をできるだけ維持しながら公共施設の総量削減を実現する取り組みとして、地域のみなさんとともに地域の公共施設のあり方とまちづくりの方向性を話し合いながら、どの施設に何の機能を持たせるのか、どの施設を集約するのかなどについて、地域の意見をお聴きすることが目的です。具体的な改修や建て替えの内容については、大江山地域実行計画を策定後に基本構想を立てる段階でご意見をお聴きする予定です。

- なぜ、「建て替え」もしくは「改修」なのかを、もう少し具体的に理由を知りたい。

【回答】

- 大江山農村環境改善センターが大規模改修の目安である築40年を越えていること、また、第1回、第2回のワークショップにて、みなさんから農改センターを地域の拠点として活用していきたいとのご意見が多くあったことから、農改センターを中心とした再配置案の検討パターンを提示いたしました。
 その中で、市の公共建築物長寿命化指針において今ある公共施設を築80年まで使うことを基本としていることから、「改修」し、現状の施設スペースを有効活用する検討パターンを提示しました。
 一方で、農改センターや農改センターに集約する老人憩の家の利用状況を鑑みますと、コンパクトに「建て替え」することで、課題解決が可能となることから、「建て替え」についての検討パターンも提示しました。

- 大江山地域に限らず広い範囲で、既存施設の有効利用を議論したい。

【回答】

- 市では公共施設を、公共サービス、公共施設の利用圏域を次の3つに区分しています。

圏域Ⅰ施設 全市域を対象とする市を代表する施設
 圏域Ⅱ施設 区または複数区を対象としている施設
 圏域Ⅲ施設 上記以外の地域単位（中学校区）を対象としている施設
 （文化財的施設、市営住宅は運営上の特性から区分対象外）

現在行われている大江山地域のワークショップは、地域密着施設である圏域Ⅲ施設を対象に、地域のみなさんとともに地域の公共施設のあり方とまちづくりの方向性を話し合うことで、大江山地域の「地域別実行計画」を策定することとしています。

また、圏域Ⅰ・Ⅱ施設の再編については、利用者が広域にわたることから、地域単位で検討することは難しいため、老朽化の状況や利用の実態を把握するとともに、県が所有する本市内の同一機能の施設と機能・役割分担を考慮しながら、市として再編の考え方を整理していくこととしています。